

## 江戸の風景には 富士がある

[企画展のご案内]  
「かみ、さまざま一広がる和紙の世界」  
開催

「江戸自慢三十六興 鉄砲洲いなり富士詣」・二代広重  
三代豊国画・国立国会図書館所蔵  
鉄砲洲稲荷神社の富士塚を参拝する様子。



## 江戸の風景には富士がある

**日本の象徴 霊峰富士**

富士山が世界文化遺産に登録されて一年が過ぎた。日本一の高さ(三七七六m)を誇る富士山は、周辺に連なる山脈などもなく、まさに霊峰と呼ぶにふさわしい孤高の気高さがある。いまや世界中の人を魅了してやまない富士山だが、江戸時代も人々を魅了し、富士山信仰は盛んであった。しかし、富士山は誰でも容易に登れる山ではなく、お金も労力もかかる。また江戸時代後期までは女人禁制の霊峰とされていたため、ほとんどの人にとって、富士山は遠くから拝むだけの存在であった。**富士山に登らなくても利益を得る法**

そんな困難な富士登山だが、実は登山をせずとも、富士山に登ったと同等の価値を得られる方法がある。それは富士山に見立てたわずか一〇mほ

どの富士塚という山に登ることと成せる。

富士塚とは、富士講(富士山に登り、浅間神社に参拝することを目的とし結成された信仰組織)の講徒が、富士山信仰に基づき模擬登山の場として、富士山を模して築造した人工の山や塚のことである。後世の開発等で消失してしまつたものもあるが、現在も富士を望める各地で見ることが出来る。

富士山はむしろ登るよりも遠くから拝む存在だったが、江戸の町中どこでも富士が拝めたわけではない。富士の眺望を意識しながら造られた大名屋敷ならいざ知らず、庶民が富士を眺めるためには近郊の台地へ行かなければならなかつた。その人々に富士を拝める場所を提供したのが富士塚である。したがって、富士塚は模擬登山ができるだけでなく、その



目黒新富士塚の頂上から富士山を眺める人々。「名所江戸百景 目黒新富士」・広重 画・国立国会図書館所蔵

頂上に登ると本物の富士山を眺望することが出来る設計になっている。

### 精巧に富士を再現しています

竹谷靱負『富士山文化』(二〇一三)によると、富士塚と認定するには三条件がある。

一、富士講徒が資金を出し合つて土石や資材を購入し、自分たちの手で土石を運び、築造した塚であること。あるいは、新たに地面から土石を盛つたものでなくとも、自然の山や古墳などをもとに、富士講徒が加工している

こと。

二、葛折りの「登山道」と「合目石」を設けていること。合目石とは、何合目まで登ったかを示す道標である。したがって、富士塚はただ望むだけでなく、実際に頂上まで登ることができなくてはならない。

三、富士講の信仰に特有な、以下の要素を設けていること。

- ・頂上に、「奥宮」の社殿、もしくは祠がある。
- ・中腹(五合目)、向かつて右側に「小御嶽」がある。
- ・中腹よりやや上部(七合五勺)、向かつて左側に食

行身祿入定の「烏帽子岩」がある。

・麓に向かつて右側に「胎内」がある。

・山裾に「社殿」と「鳥居」がある。

以上の三項目が基本的な要件だが、このほかに塚の表面に富士山から持ってきた溶岩(黒ボク)を積んだり、講社の石碑や食行身祿の石像を置いたりする。

富士塚はまさに富士山を忠実に再現している。だからこそ、ご利益も富士山同様に期待できるのである。

### 富士塚築造の真の目的と江戸の造園技術

最初に造られた富士塚は、藤井藤四郎という造園師が安永八年(一七七九)、高田(現在の新宿区戸塚)の水稲荷神社に築いたもの(俗称高田富士)だといわれている。藤井藤四郎とは、富士講を隆盛に導いた食行身祿の直

弟子である。

造園師であつた藤四郎は、師を追悼するため形に遺るものとして富士塚を造つた。こんなところにも日本人のミニチュア好きと、江戸の造園技術の高さが表れている。

高田富士は残念ながら昭和四〇年(一九六五)に早稲田大学の校地拡張により分解されてしまつたが、四〇〇mほど西に移築され現在も高田富士祭りのときのみ入山できる。

富士塚はその後、身祿の教えを遵守する富士講とともに江戸から近郊各地に広がっていく。

富士塚には食行身祿の



千駄ヶ谷の富士塚案内板

神格化という目的のほかにも、もうひとつ目的がある。それは遥拝所としての役割である。富士塚の上に登れば富士山が眺望できるので、講員が富士山を望みつつ参拝する場としての機能ももっている。

### 富士塚参りをしよう

富士塚は身近にあるからといっていつでも登れるわけではない。大概の場合、富士山と同様七月一日の山開きに合わせて祭礼が行われ、登山期間が決まっている。

二三区内には、江戸時代、二〇基の富士塚が築



鳩森八幡神社(千駄ヶ谷)

造されており、前述した高田富士を契機とし、一八世紀後半には寛政元年(二七八九)に築造された千駄ヶ谷の鳩森八幡神社境内の千駄ヶ谷富士、寛政二年(二七九〇)に築造された築地の鉄砲洲稻荷境内の鉄砲洲富士がある。



千駄ヶ谷富士の全景

千駄ヶ谷の鳩森八幡神社の富士塚は、紅ミュージアムから程近い場所にある。大正一二年(一九二三)の関東大震災後に一度修復されてはいるが、現存する都内の富士塚では最も古のもので、東京都の有形民俗文化財に指定され



登山道と浅間神社(奥)

ている。今回、この富士塚に実際参拝してみた。

鳩森八幡神社境内の右手にこの富士塚はある。高さは六mほどである。

鳥居をくぐるとゆるやかな階段の登山道がつづき、五合目に浅間神社の里宮がある。

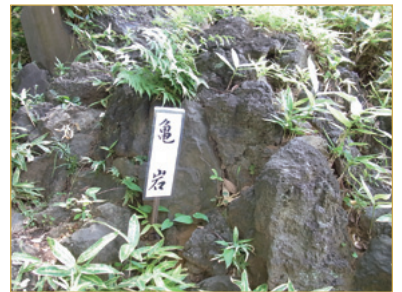
七合目付近には、亀岩や烏帽子岩、食行身祿像を祀った祠などがあり、さすがミニチュア富士といわれる凝ったつくりである。そして、頂上には富士の溶岩(黒ボク)を配した奥宮が建てられている。ちなみに千駄ヶ谷の富士塚は、一年中お参りの



食行身祿像の祠



烏帽子岩



亀岩

できる貴重な富士塚である。機会があればぜひ参拝してみるのもいい。



富士の溶岩を積んでいる頂上の奥宮

### 江戸の中の富士

関東周辺には、今も富士見などといった地名が多く残っている。今はビルの間からしか見えなくなってしまうたかもしれないが、江戸時代、そこからの富士の眺めは絶景であっただろう。

また、広重の「名所江戸百景」や北斎の「富嶽三十六景」にも、江戸の町から望む富士が多く描かれる。富士山信仰とは、江戸の空に姿を現す富士への畏敬とも思える。

# 企画展「かみ、さまざまー広がる和紙の世界」

2014年11月1日(土)～12月14日(日) 企画展観覧料500円

この秋、紅ミュージアムでは、素材としての「和紙」に焦点をあてた展覧会を開催します。

手漉きの和紙が持つ独特の風合いと美しさは、機械漉きの洋紙では決して表現できません。しかし明治時代以降、近代化の流れが和紙の質より洋紙の量を求めるようになったことで、日本人の生活から和紙は遠のいていきました。明り取りの窓や障子、襖や屏風で裝飾された室内、行灯の柔らかい明り、こうした日本家屋の風景は、いまや希少価値さえ感じさせるものとなりました。「日本人は木と竹と紙の家に住んでいる」と評したのは、明治期に日本を訪れた外国人らです。住まいをはじめ、日本人の日常生活に紙は欠かせない材として、あらゆる形で機能して

いたのです。なぜ紙を材にしたのか、現代人の感覚では至極まっとうなこの疑問こそ、私たちの生活から紙が離れてしまった証でしょう。

中国から日本に製紙の技術がもたらされたのは、記録上では六一〇年といわれています。以来、楮・三椏・雁皮などの韌皮纖維を主原料に、強くしなやかな紙が漉かれてきました。

かつて紙は、特定の層が特定の用に使う貴重品でしたが、近世になるとその消費層は町人社会にまで拡大します。製紙が広範に行われ、市場には蔵物・納屋物各種の紙が流通し、その種類はゆーに数百種を超えたといえます。

紙といえば書写・印刷媒体としての用途が第一に挙げられますが、近世

社会における紙の消費は、生活用材として多用された点に特徴があります。先の障子・行灯といった建具や照明具に充てられた紙、油を引き防水性を持たせて傘や合羽に使われた紙、漆を塗り耐久性を持たせて煙草入れや文管に使われた紙。これらはみな、張り重ね、揉み、絞り、あるいは燃って編み、折り包むなどして生活用品に姿を変えた、もうひとつの紙のありかたでした。

【会期中の開館時間】  
10時～18時(入館は17時30分まで)  
※毎週金曜日は10時～20時(入館は19時30分まで)

【協賛】  
公益財団法人紙の博物館 放送大学 附属図書館、其角堂コレクション

※観覧料と引き換えに企画展リフレットが付きまます。



## Information かわら版

**季節限定柄商品のご案内**

伊勢半本店では、10月1日より「小町紅『手毬』」季節限定柄3種(各9,000円/税抜)を発売いたします。写真は、魔除けの意味を持つ麻の葉のデザインの「あさのは」。その他に、桔梗柄に浅葱色と橙色をあしらった「花てまり」、菊を大胆に配した「菊千代紙」。お子様の七五三に、大切な方への贈り物に最適の一品です。



小町紅『手毬』あさのは(9,000円/税抜)

Since 1829  
**伊勢半本店 紅ミュージアム**

●開館時間/11:00～19:00 ●休館日/毎週月曜日  
(月曜日が祝日または振替休日の場合は、翌日が休館日となります)

東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビル1F  
TEL&FAX:03-5467-3735  
東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」下車B1出口より徒歩12分

<http://www.isehanhonten.co.jp>